

## 惣右衛門の井戸

《小 中》

上小中に惣右衛門の井戸というのがある。昔、この家の主人、惣右エ門という人は長沼街道を馬子をして、暮しの助けにしていた。

ある日、牧之内(天栄村)の辺りで、白装束の白髪の神々しい老人を乗せた。その人は長沼の近くで馬からおりて、お礼にといつて巻物を与え、「困った時間いて見よ」と言つて立去つた。

通行人の話しでは、馬の背に乗つていたのは、御幣だつたという。この白装束の老人は、藤沼様の仮の姿だつた。巻物は家の宝として代々伝えられた。

それ以来、惣右エ門の家の井戸は、藤沼様が来ると一杯に水が溜つて報せがあるという。その後、子孫の代に惣右エ門家は、不慮の火災に逢つて焼けた。家宝の巻物も一緒に焼け、一度も開いたことがないので、中を見た人はいなかつた。

いまはここには家もなく、井戸だけが残っている。

(話者 八木沼勝美)



惣右衛門の井戸